

「きみはいつおとなになったんだろう」～長田弘さんの詩から考える～



SHR前、教育実習生。今日も頑張ろう！緑豊かな5月！



「夏の物語—野球—」長田弘

掴む。滑る。砂煙があがる。倒す。倒れる。どよめく。
沸く。燃える。ギョッとくちびるを噛む。苦しむ。焦る。つぶさ
れる。どこまでもくいさがる。どこまでも追い上げる。どこま
でも向かっていく。波に乗る。拳を握る。襲いかかる。陥れる。踏
み込む。真っ二ツにする。盗む。奪う。刺す。振りかぶる。構え
る。投げおろす。打ちかえす。叫ぶ。叫ぶ。跳びつく。駈ける。
駈け抜ける。深く息をする。引き締める。かぶりを振る。うなず
く。狙う。睨む。脅かす。浴びせる。崩す。切りくずす。むきだし
にする。引きつる。踏んばる。顔をあげる。腰を割る。粘る。与
える。ねじふせる。投げる。打つ。飛ぶ。走る。見事に殺す。な
お生きる。生かしてしまう。付けいる。追い込む。突きはなす。
手を出す。見逃す。読む。選ぶ。黙る。黙らせる。目に物みせ
る。意気地をみせる。思い切る。叩く。突っこむ。死ぬ。(動詞
だ、野球は。すべて動詞で書く物語だ) あらゆる動詞が息づ
いてくる。一コの白いボールを追って 誰もが一人の少年に
なる夏。

※スペース関係でレイアウトは本文どおりではありません

明日から多くの部活動が参加する**中信総体が始ま
ります**。3年生にとって集大成となる最後の公式大
会。この日を目指して築いた仲間とのきずなそして
戦い抜いた日々、学んだ教訓、身体との向き合い、
全てをプレーに発揮し悔いなく挑んで欲しいと願い
ます。**蟻高生！ファイト！！**●先週より教育実習生
が入っています。この学生さんたちは高校時代が全
てコロナ禍により制限続きだった学年。あの時頑張
ったことを今ここで生徒たちに伝えてほしいと期待
しています●5月5日こどもの日、信濃毎日新聞の
「斜面」に**長田弘さんの詩**が紹介されていました。
「きみはいつおとなになったんだろう」の間で始ま
る詩。誰にも子供の時があって一度しか大人になれ
ない。9つに分かれた散文詩の中で長田さんは「あ
のとき」を綴る。「遠くへ行ってはいけないよ」と言
われなくなった時、「なぜ」を口にしなくなった時・・
というものでした。子供から大人への境目ってどこ
なんだろう。自分は大人になれた気がしてあるいは
大人になりたくない葛藤したあの時は正解だっ
たのだろうか・・あらためて長田さんの詩を読みた
い思いに駆られ司書の太田先生から図書館の詩集
をお借りしています。彼の視点は、日常に隠された
美しさ、自然との共存、温かな人間関係、そんな日
常の風景を美しい言葉と独特の表現で綴っていま
す。全て**「動詞」**で綴られた**「夏の物語—野球—」**は、
大会に挑む今の皆さんにおくりたい詩です。図書館
蔵書の長田詩集、ぜひ手に取ってみてはいかがでしょうか？

